

連 帯 感

桜井 妙子

舞鶴市では、今、女性センター設立をめぐって大きな話題を呼んでいます。

二十一世紀を前にして、男女がそれぞれの特性を活かしながら、自由な生き方を認め合える社会づくりこそ、私達が求めている課題です。

私達の女性連絡協議会は、平成六年十二月、民間団体として結成され、現在十七団体が加入し、延一万余の会員を有しています。この会では、グループ相互の情報交換や交流等を通じて、女性のネットワークを広げ、女性問題に対する共通認識の下に問題解決に向けとり組んでいます。私達が、活発に活動を進めていく上での拠点となる女性センターは、何としても必要です。現在、具体的な要求活動や、行政との話し合いを通じて、私達の目ざすセンター建設に生命を燃やしています。

なお、三月開催の第二回女性まつりの企画を担当し、昨年に勝るアイデアとパワーで成功に導きたいと考えています。

(京都府連合婦人会)

赤い貝殻

四方 美代子

毎年夏になると小さいザル一杯の貝殻を広げてみる。拾ったもの、貰ったもの、買ったもの、色も形も想いもさまざまである。

その中に赤と黄の絵貝で彩色された小さい貝がある。この貝は十四年前、セルビア共和国の手カヨバスアイ幼稚園を訪問した時、歓迎の記念品として幼児から贈られた品である。その国は三年半前、民族、宗教上の対立から内紛の未崩壊したユーゴスラビア連邦である。サグレブ、サラエボ等悲惨な争いの渦中の地名を聞くたび、多感な青年期にある当時のあの幼児たちに思いを馳せ、沈痛な思いを抱き一日も早い和平を切望したものである。

その国で私は育児休業制度をはじめとする様々な社会保障制度の中で、女性達があらゆる分野で活躍している実態に目をみはる思いであった。ようやく緒についた日本の男女共生時代、施策と並行して一人ひとりの自覚、努力が今こそ必要だと思っている。

(京都府連合婦人会)



マオリの人との交流



— 1996年京都府女性海外研修に参加して

13日間の長い研修、まして初めての海外ということで、緊張と不安と期待が交差する中で、ニュージーランドに飛び立ちました。

向こうは初夏ということで、澄み渡った青空、おいしい空気に思わず感動を覚え、車で走っていても、野原と牧場ばかりですれ違う車も少なく、面積の広さ・人口密度の違いを実感させられました。

見る物聞く物初めてのものばかりで、驚いたり、共感したり、いい経験をさせて頂きました。又、団員の皆さんとも交流させていただき思い切って参加して、本当によかったと思えました。(田中あかね)

ニュージーランド(クライストチャーチ)ポリテック訪問



9月10日の第1回事前研修に始まり、3回の研修を積み重ねて世界最初の女性参政権の施行、女性省が設けられている国を頭に置き、研修生9名と堀内課長を含む一行10名の女性が不安と期待を胸に出発いたしました。ニュージーランドのオークランド空港に降り立ち、早速バスで雄大な酪農地帯や町並みの視察、広々とした道路、高速道路は無料で家の周りには緑が多く、シダの木の葉が大きく成長し、あらゆるところに生息していました。バラ園や公園に行くと日本でも見られる花が大きく成長し咲いているのに驚きました。初夏を迎える季節で1日が四季の気温だそうです。先住民族であるマオリ族のマオリ語を使った地名が多くあり、マオリ文化を伝えているのだと感じました。マオリ族資料館を見学し、先住民の人達とも出会い、間欠泉や、ワイトモ洞窟に入り暗くて幻想的で神秘的な土ボタルの光りにうっとりしました。首都であるウエリントンには静かで清潔な町でした。マオリ族の女性たちとの交流で狭い集会所に通され、これらの女性に対する福祉、保健機関ということで組織が結成され、女性の教育、歴史、文化を大切に伝えていく活動などを学ばせて頂きました。社会福祉省の福祉課では、目的として人々を保護から福祉に代える、個人の自立を目指す福祉の補助制度、定住者であれば誰でもが制度を受けられることなど詳しく説明を受けました。クライストチャーチでは女性議員の方からは地域に根ざした活動を続けてこれ現在現在の地位にあること。田園都市として環境を重視した街づくり、ゴミのリサイクル、緑の多い街づくりと目標をもった活動でそのパワーに驚きました。ポリテック(専門学校)の視察では、高校卒業生からパートで働きながら専門技術を獲得するため夜間コースに通って学ぶ人達が多かった。年齢はさまざま夜間コースがあるのは広範な取組ですばらしいと思います。障害児者の乗馬による訓練を受けることでは、知的障害を持つ子供たちは学校の授業の一環として週1回通っている。精神障害の人達も情緒不安が安定してくる。重度の障害を持つ人も乗馬訓練を受けることができ、馬は機械と違って温かく命令もなく体温から伝わってくる温もりがあると説明をされ心のケア機能回復訓練に役立っている。訪問した時、中途障害者の女性が片手で手綱を持ち4年後のシドニーのパラリンピック出場を目指して乗馬の訓練をされていた。表情も明るく生き生きとして訓練をされているのを見学し心がなごむ思いをしました。パトリシアジョーンズさんを囲んでの懇親会、青少年問題は男女ともに働く社会でも5才位までは子供と親とのコミュニケーションが大切であることを話されました。次にオーストラリアに移動し、カラビン野鳥園、コアラを抱っこしての記念写真や美しい小鳥、珍しい動物にシャッターを何度も押ししました。ウイメンズヘルスセンターは女性の健康管理を維持していくところで電話での相談を受け、専門的にカウンセリングする機関に付いているところです。ここではいろんな国々の女性たちが活動しておられた。シドニーでは(WGティラー・リタイアメントビレッジ)老人ホームの施設見学をし、入所者に対する3つの分野、①セルフケア②ホステル(サポーター)③ナーシングホームの具体的な説明を受け、入所者のみなさんとのティータイムやゲームを教わったり楽しいひとときを過ごさせて頂きましたが女性に対し男性の姿が少なかった。ナショナルカウンシルフォーウイメンは女性問題や女性の地位向上のために取り組んでおられ、局長さんをはじめスタッフの人達も高齢者がほとんどであった。十数年前より高齢化が急増しているため新しいシステムを考えているとのこと、サービスを受ける人が負担するという概念・組織の中で基本的な定年がなくなったこと。高齢者であっても体力的に障害が無ければその技術を生かして長く働ける。高齢者としての差別を受けられない法律ができている。老齢年金制度や特別制度の具体的な説明を詳しく聞いてみると、例えば日本でも実施されようとしている、年金の段階的年齢の引き上げなど共通する部分も多くあった。簡単な研修内容の報告になりましたが、ニュージーランド、オーストラリア両国の福祉施策を研修するなかで、わが国の福祉や女性政策も決して遅れてなく実施されていることがわかりました。京都府は、各組織より女性の海外研修の取組を計画し実践して頂くことに感謝し今回参加して体験できたことを幸運に思います。

(前田 三子)

オーストラリア・ゴールドコースト

